



平成 23 年 6 月 17 日

各 位

会 社 名 ザインエレクトロニクス株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 飯塚 哲哉
(JASDAQ・コード番号：6769)
問い合わせ先 取締役経営企画部長 高田 康裕
電 話 番 号 0 3 - 6 8 6 0 - 0 6 6 6

当面の経営方針に関するお知らせ

当社は 2011 年から 2013 年に至る中期経営戦略「TACK100」を掲げ、その達成に向けた取り組みを行っております。現在、テレビを始めとする市場環境の急速な激変が生じていることに対応して、当面の経営方針を以下のように策定いたしました。今後とも、「人資豊燃」を企業理念とし、一人当たりパフォーマンスに優れた企業集団であり続けられるよう、グローバル市場への付加価値提供と事業の発展に邁進してまいります。

1. 戦略市場分野

当社が競争優位性と新付加価値提案力を持つインターフェース分野を核として、テレビ市場に加えて、タブレット PC 市場、スマートフォン市場を戦略市場分野と位置付けて、事業を展開してまいります。

当社独自技術の V-by-One®HS が次世代テレビ内部インターフェースとしてデファクトスタンダード（事実上の世界標準）となり、新たな液晶ドライバインターフェース CalDriCon®の市場投入を開始するに至りました。業界環境は非常に厳しい状況にありますが、こうした当社の優位性を活かし、アジア市場への展開方針である「TACK」(Toward Asia, China, Taiwan, and Korea) を重要な方針として維持し、グローバル事業を運営してまいります。

将来の発展が見込まれるスマートテレビ市場においては、V-by-One®HS への関心が急速に高まるとともに、新たなグローバルリーダー企業が参画しつつあります。当社は、デファクトスタンダードを提供するポジションを最大限活用しながら、新たなパートナーシップを構築し、急速に激変するテレビ市場においても、当社の付加価値を広範に提供していく方針です。

また、当社のタブレット PC 向けの情報伝送用 LSI 製品については、台湾受託製造企業を含めた積極的な引き合いを受けており、来期に向けた拡大が期待されます。モバイル市場に向けては、タブレット PC およびスマートフォンといったアプリケーションに対応した製品を新たに開発し市場投入することにより、今後のビジネスを積極的に伸ばしていく方針です。

2. 事業運営構造の再構築

人財力を経営資源とし、研究開発の投資回収力を抜本的に強化するため、事業運営構造を以下により再構築してまいります。

(1) 研究開発の重点化

上記の戦略市場分野に対応した研究開発に経営資源を集中投入してまいります。

研究開発体制を加速するため、研究開発体制を集約してまいります。この際、研究開発投資につきましては、回収確度が高いプロジェクトを実施していく方針を堅持してまいります。

(2) 韓国・台湾拠点の強化

韓国および台湾拠点の機能を一層強化し、顧客への提案力を活かして事業拡大を図ってまいります。

(3) アライアンス機会の積極的活用

V-by-One[®]HS につきましては、液晶パネルメーカーに加え、グローバルリーダーのLSIメーカーでも採用が進みつつあります。こうした業界ポジションをアライアンス機会創出のためにも積極的に活用してまいります。テレビ市場のみならず、事務機器市場を始めとする情報機器市場に対しても、当社付加価値の提供を図ってまいります。

(4) その他措置

上記のほか現在の厳しい事業環境に対応する必要性および将来へのチャンスのために迅速にかつ全社一体となって対応する必要性に鑑みて、以下の措置を講じます。これらに加えた追加措置も検討し必要性を踏まえて講じてまいります。

①取締役報酬削減

今期の取締役の報酬を代表取締役について△30%削減し、他の取締役については平均24%削減することとし、本年4月に遡って実施いたします。

②デザインセンター開発力の一体化

研究開発を加速化するため、九州デザインセンターのメンバーの本社への一体化を図り、全社一体となった研究開発を実施します。また、これに伴い、昨年12月の京都デザインセンターの閉鎖に続きまして、本年中に九州デザインセンターを閉鎖します。